

遠く空。  
近い空。

2023

9.30 sat ~

10.15 sun

11:00-18:00 観覧無料

東静岡アート&スポーツ/ヒロバ

静岡市葵区東静岡1-3-76 JR東静岡駅北口すぐ 静鉄長沼駅から徒歩約4分 駐車場有り(有料)

アーティストトーク 9.30 sat

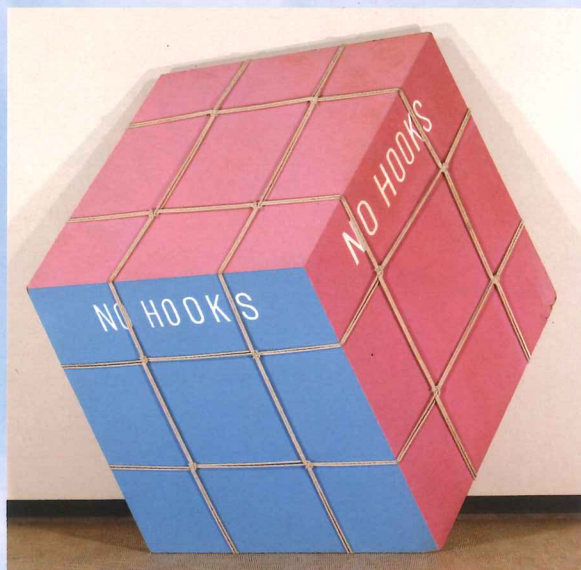
13:00~14:00 丹羽勝次+丹羽菜々  
聞き手:白井嘉尚  
(美術家・静岡大学名誉教授)

丹羽勝次 × 丹羽菜々展

Art @ ヒロバ 東静岡

Katsuji Niwa × Nana Niwa

丹羽勝次と丹羽菜々による二人展。丹羽勝次は、近年再評価の機運にある1960年代のグループ「幻触」のメンバーで、現在も表現者として時代に向き合い続けています。丹羽菜々は筆触の増殖による絵画や、仮設的な「色の帯」で空間を変容させるアートを展開。今回は、なによりも大切な「平和」への願いが込められています。



丹羽勝次 (NO HOOKS) 1968 静岡県立美術館所蔵  
※写真の作品は今回の展示内容とは異なります



丹羽菜々 <色の調べ> 2022 遠州横須賀街道ちっちゃな文化展



丹羽菜々 <風に溶ける> 2016 栄醬油醸造にて



丹羽菜々 <色の帯> 2011 風紋館にて

遠い空の下、シェルターが建つ。  
シェルター、寢床の温もりはあるか。  
近い空の下、シェルターが建つ。  
世界の友は言う。  
核の弾頭より、花がいいと。  
遠い空。近い空。  
どこにおも、どこにおも。  
いつおもも、いつおもも。  
遠い空。近い空。

丹羽勝次  
2023年9月

ヒロバ

ヒロバはあった。  
流れる水が渴きを癒し  
地の恵みが飢えを満たす。  
野の花が風に揺れる。

同じ空の下、  
何が起きているのだろう。  
子どもたちはどこに行くのだろう。  
花は、鳥は、太陽は、どこに行くのだろう。

丹羽菜々  
2023年9月

## 丹羽勝次 Katsuji Niwa

1931年、磐田郡三川村(現・袋井市)に生まれる。1956年、静岡大学教育学部卒業。1964年、石子順造と出会い、その問いの鋭さと生き方に衝撃を受け「美術の現代」を強く意識するようになる。1966年、グループ「幻触」の創立に参加。1971年の「幻触」終焉後も静岡を拠点に表現者として時代に向き合い続ける。

1966~68年 グループ「幻触」展(ギャラリー創苑、ギャラリー新宿/東京、他)

1967年 『シェル美術賞展』佳作賞受賞

1968年 『トリックス・アンド・ヴィジョン』展(東京画廊/東京)

1989年 『アバウトヘイト否! 国際美術展』静岡県代表委員

2001~15年 『遠州横須賀街道 ちっちゃな文化展』(掛川市)

2014年 『グループ「幻触」と石子順造 1966-1971』展(静岡県立美術館)

他、静岡県内外で個展・グループ展・企画展への参加等多数

主催:東静岡アート&スポーツ/ヒロバ実行委員会

企画制作・運営・問合せ:公益財団法人静岡市文化振興財団(054-255-4746(平日8:30~17:30)) <https://event.shizuoka-city.or.jp/art/>

## 丹羽菜々 Nana Niwa

静岡市生まれ。1989年、静岡大学教育学部卒業。「拡がる・endless」をキーワードにした平面作品《here and there》と、場と空間を意識したインスタレーション《色の帯》を並行して行っている。内へ外へと感性を上げ、今この時に起きていることに関心を寄せる。

2000年から「遠州横須賀街道 ちっちゃな文化展」(掛川市)に継続して参加

2012年から「GYOWTEN」(三島市)に継続して参加

2017年 『かけがわ茶エンナーレ』(掛川市)

他、静岡県内を中心に個展・グループ展、多数開催



ON  
STAGE  
SHIZUOKA  
まちは劇場